

図書館へ行こう

本は、市内の図書館・図書室どこでも貸出・返却できます。

おすすめの
新刊

『小さな生きものたちの不思議な暮らし』

著/甲斐 信枝
出版社/福音館書店

40年にわたり自然と向き合い、植物や虫たちの不思議な生態を美しく描き続けてきた著者によるエッセイ。物語では味わえない科学絵本の魅力について、優しい言葉で語られています。



『コマ送りレシピ』

作/堤 人美
出版社/主婦の友社

“見ればわかる、読まずに作れる”をモットーに、コマ送りしているように、料理ができていく様子をライブ感いっぱいに掲載したレシピ集。見た目だけでなく、味も抜群のおうちごはんを紹介しています。



『万引き家族』

著/是枝 裕和
出版社/宝島社

高層住宅の谷間に取り残された平屋に住む一家の目当ては祖母の年金。不足のものは万引きという犯罪でつながる生活…。カンヌ映画祭最高賞パルムドールを受賞し、話題となった作品の小説版です。



『おうち』

作/中川 ひろたか
絵/岡本 よしろう
出版社/金の星社

人間だけでなく、生きものたちにもみな、遠く離れていても帰る家がある。どうしてなんだろう。いつも安心を与えてくれる場所、おうちについて考えるテツガク絵本。日常をほのぼのと描きます。



『せんそうをはしりぬけた「かば」でんしゃ』

作・絵/間瀬 なおかた
出版社/ひさかたチャイルド

1936年3月につくられた電気機関車は、流線型の顔がかばに似ていたので「かば」と呼ばれていました。特急列車としてたくさんのお客さんを乗せて走りましたが、やがて戦争がはじまり…。乗り物で伝える平和のメッセージ。



『だんまりうさぎとおほしさま』

作/安房 直子
絵/ひがし ちから
出版社/偕成社

だんまりうさぎは、眠ってしまっても星を見られる方法を考えつきました。そして、畑を耕し種をまいて…。だんまりうさぎとおしゃべりうさぎが、一緒におまつりに行く話も収録。



各図書館・図書室連絡先

平戸図書館	☎22-4017
永田記念図書館	☎28-0128
南部公民館図書室	☎27-0047
生月図書室	☎53-2111
田平町中央公民館図書室	☎57-0207
大島村公民館図書室	☎55-2511

図書館ホームページ

http://www.hirado-lib.jp
携帯電話からQRコードを読み込んで簡単にアクセスできます。



図書館のイベント情報

会場	主なイベント	開催時間
平戸図書館	おはなし会 (おはなしのへや)	毎週日曜 午後2時~
	赤ちゃんおはなし会 (おはなしのへや)	8日(水) 午前10時30分~
	平和こども上映会 『48色の夢のクレヨン ヒロシマで眠った子供の心』	7日(火) 午後2時~
	『みんなdeシネマ』(COLAS平戸ホール) 『放浪の画家ピロスマニ』(洋画:85分)	11日(土)・23日(木) 午後2時~
	ライブラリーコンサート(COLAS平戸ホール) 今月は、佐世保を拠点に活躍するmonami5(モンアミファイブ)の皆さんによる演奏です。	25日(土) 午後7時~
永田記念図書館	子ども司書体験 おはなし会 (ふれあいセンター児童室)	3日(金) ※要申込 毎週土曜 午後2時~

今月の休館日 永田記念図書館：7日(火)、14日(火)、21日(火)、26日(日)、28日(火)

各地域の食生活改善推進員が紹介します！

今月のレシピ

健康ほけん課健康づくり班 ☎内線2546

『きゅうりの甘酢炒め』

【材料(4人分)】

きゅうり	2本	A	砂糖	大さじ1
ショウガ	1/2かけ		濃口醤油	大さじ1
ごま油	大さじ1		酢	大さじ1
			こしょう	少々

【作り方】

- きゅうりは縦半分に切ってスプーンで種をこそぎ取り、斜め4mm~5mm幅に切る。ショウガは細切りにする。Aの調味料を合わせておく。
- フライパンにごま油を中~強火で熱し、①のきゅうりをさっと炒め、ショウガを加えて軽く炒め合わせる。
- Aの調味料をふり、強火で汁気を飛ばすように炒めたら出来上がり。

【栄養(1人分)】

エネルギー 47kcal 脂質 3.1g カルシウム 13mg 塩分 0.7g



暑い夏にもってこい!

きゅうりには、身体を冷やす効果があります。

また、脂質分解酵素である「ホスホリパーゼ」という酵素が含まれていることがわかり、最近注目を浴びています。



田平支部 つばき会
さかもと かずこ
坂本 和子 さん

毎月19日は「食育の日」です!

住む人に誇りを、訪れる人に感動を

「世界遺産」と「観光」は一体的に話をされることが多いが、その中で世界遺産は観光客のためか、あるいは地元住民のためかということがしばしば議論になります。しかし、「住んでよし、訪れてよし」という言葉にもあるように、本来これらは「観光まちづくり」として両輪で進めていくものです。

「観光まちづくり」とは、経済中心で語られるものでも、崇高な理念に基づくものでもなく、私たちが生き生きと暮らすために必要な手段といえます。また、外部の人たちとの適度な交流がまちの元気を生み、まちづくり活動への強い原動力につながります。

私たちが誇りを持って、より質の高い、豊かな暮らしを営む上でも、交流人口の増加によって地域経済の活性化を図る上でも、地域固有の歴史や文化の象徴である地域資源を守り、生かすことは不可欠です。

新しい文化の創造も大切ですが、それを急ぐと表面的な「観光まちづくり」になりかねません。世界の都市をみると、長い時間をかけ、風土として形成された歴史的環境があつてこそ「観光まちづくり」なのです。

住む人に誇りを、訪れる人に感動を。世界遺産登録をきっかけに、一歩ずつ前に進んでいくことが大切です。

世界遺産 vol.5

「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界文化遺産に関する情報をお知らせします。
☎文化交流課文化遺産班 ☎内線2277

案内所「かたりな」の様子



来訪者と住民の交流が大きな魅力になっています。